
学園都市救世主伝説外伝 —木原の拳—

爆睡中

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

学園都市救世主伝説外伝 ―木原の拳―

【Nコード】

N2406R

【作者名】

爆睡中

【あらすじ】

200X年、学園都市は天罰術式に包まれた！

そして、全ての文明は崩壊し、学園都市は暴力が支配する恐怖と混乱の時代を迎える。そんな混沌とした世紀初頭にいきる一人の男の話……………

（前書き）

某動画サイトの投稿動画、大百科見てノリで書いた。
色々ぶっ飛んだ内容だが後悔も反省もしていない。

200X年、学園都市は天罰術式に包まれた！

海は枯れ、地は裂け、あらゆる生命体は絶滅したかに見えた。

しかし、人類は死に絶えてはいなかった！

ヒューズ・カザキリは全ての文明を破壊し、学園都市は暴力が支配する恐怖と混乱の時代になっていた。

顔にタトゥーを刻んだ木原数多は、数多くの強敵と出会い、戦い、別れを繰り返し、悲しみそして殺意を背負いながらも世紀初頭覇者一方通行との戦いに挑む……！

学園都市救世主伝説外伝 ― 木原の拳 ―

超能力者^{レベル5}の頂点にたつ覇者、一方通行。

その男を倒すためだけに造られた恐るべき暗殺拳があった。

その名を木原神拳。

その使い手は木原数多。

学園都市に連なる7人の超能力者^{レベル5}達は絶対能力者^{レベル6}を目指し、今日も悲劇を繰り返している。

男は一人、孤独に戦い続ける。

* * *

学園都市某所。

夜の街で数人の不良が一人の少女を囲んでいた。
男たちは色欲に塗れた視線を少女に向ける。
今日も弱者は強者に蹂躪される。

これが日常、現在の学園都市の実態。

そこに一人の男が現れる。

髪を金色に染められ、左頬に大きなタトゥーが刻まれていた。
気だるげに男は呟く。

「はあ．．．人助けは趣味じゃねえんだが」

その言葉に不良たちは呆気にとられる。

十数人いる自分達にこの男は喧嘩を売ったからである。

対して、男は全くといっていい程やる気が感じられない。

「おい、おっさん。見逃してやるからさっさと消えな」

それとも一緒にやるか？、と笑いながら一人が言つと残りの面子はツボにはまり、笑っている。

しかし、その笑いは唐突に途切れる。

男が拳銃を持ち、話しかけた奴を撃ったからだ。腹部を抑え、赤い液体を流し倒れる。

「いいか、スクラップ共。次はねえ。早く消えろ」

男は静かに警告する。

人を殺しかけたというのに男はどこまでも平静だった。

それが余計に不気味さを際立てる。

誰も動かない。

絶対の殺意が不良達の心に恐怖を植えつける。

「う、うわあああああああつ」

一人がとうとう耐え切れなくなり、みつともなく叫びながら駆け出した。

それが皮切りとなり、一斉に逃げ出す不良達。

そして、この場は、男と少女だけになる。

「ありがとうございます。では私はこれで……………」

「待てよ、第三位」

少女礼を述べ、足早にこの場を去ろうとしたのを男は呼び止める。
この街の人間が畏怖する名で。

「．．．．．あんた、知ってたの？ わたしが超電磁砲だつて」
「当たり前だ。だからわざわざあのゴミ共を止めてやったんだよ。
あのままじゃ人型の炭クズが大量にできてただらうしょ。それに超^レ
能力者^{ベル}はどいつもイカれてやがるからなあ」

そう、助けられたのは不良達。

この街での強者は肉体が優れている者でも群れている者でもない。
優れた異能を持った者こそが強者。

「なんの用？」

そして、男はそんな絶対的強者を助けた。

目の前の男はそんな誰であろうが構わず助ける偽善^{イイヒト}使いにはとても
見えない。

なにか思惑があつて近づいたのは容易に想像できた。
物分かりのいい少女の問いに男は答える。

「話が早くて助かる、

———なあ、一方通行^{アクセラレータ}が何処で何してるか知らねエか？」

＊ ＊ ＊

男は進む。

「ああ？ 魔術師？ いいねえ。ちょうどモルモットがいなかったんだよ」

拳を血に染めて

「はあ、こんなクソ餓鬼殺すのに手間取るなんてな。殺してえ」

死体の山を築いて

「ん？ なんだ実験動物ならそれらしく逆らうんじゃねえよ」

そして因縁の相手へ

「エヒヤハハハハハッ！！ 演出ご苦労！ 華々しく散らせてやる

から感謝しろ」

「だーから言ってるじゃねえか．．あのガキ潰すには、こんなヌルイ方法じゃダメなんだよ。やっぱ、この俺じゃねえとな」

「木イイ原くウウウウウンよお、ンだ？その思わせぶりな登場はア？人の面見ンのにビビッて目エ背けてたインテリちゃんとは思えねエよなア？」

「俺としても、テメエと会つのはお断りだったんだけどなあ、上の命令だから仕方ねえんだよ。なんでも、緊急だとかで、手段を選んでいる余裕はねえんだ、と。だからなあ、悪いけど、ここで潰されてくんねえか？」

「大体誰がてめえの能力^{チカラ}発現させたと思ってんだ？」

「あア？ なに？ なんですかア？ その義理と人情に溢れたセリフ。もしかして、恩返しとか期待しちゃってる訳？ いやア、駄目だ。つかよオ、イカレンなら一人でやれよ。オレの身体弄った研究者の数なンギア両手の指じゃ足んないんだよ。いちいちお前の思い出なんか留めておくと思ってるのかア？」

「つか、本気でム力つく餓鬼だよなあ、てめえは。いやー殺したいわあ。めちやくちや殺したいわあ。やっぱあんときちんと殺しておくべきだったんだよな。失敗、失敗。何やってんだかなあ、おい」

「そんな訳で殺すわ。このクソ餓鬼！！」

「やってみるよオ、三下アッ！！」

木原神拳創始者、木原数多

学園都市最強の覇者、一方通行

二人が激突する時、物語は始まる

（後書き）

突っ込み所満載のお話。

一方さん、木原君最高！

きっと木原君ネタはネットの海を支配する・はず。

ああ、木原神拳継承してえー

短編だから書ける自由すぎる話でした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2406r/>

学園都市救世主伝説外伝 ―木原の拳―

2011年10月8日02時34分発行